

◇編集後記◇

2012年のインパクトファクター(IF)が発表され、JOH誌は1.63であった。前体制の最終年度であった2010年(IF1.70)から引き継ぎ、実は2011年は1.55と下降していた。昨年の編集後記を確認してみたが、ちょっと気まずかったからか、誰も言及していなかったようである。何はともあれ、とりあえず維持しつつある状況に安堵した。

ところで副編を担当するようになって、それまではまったく知らなかった情報も耳に入るようになった。投稿経験のある読者をご存じのことと思うが、投稿時にpreferred reviewerを指名できる雑誌は少なくない(ただし、実際に当該査読者に割り当てられるかどうかはもちろん分からない)。オンライン投稿システムが普及してきたことにより、おそらく一つの論文がアクセプトされるまでに、以前より多くの雑誌に投稿されるようになったはずである(安易な投稿は、各雑誌の投稿規定にも従っておらず、表などの体裁も明らかに「あの雑誌」に以前に投稿したものと分かる)。つまり、編集側の事情から言えば、より多くの査読者を確保することが求められるようになったことで、preferの査読者に割り当てられることも増えたかもしれない。

さらに領域やテーマによっては、PubMed検索した

程度では、しかるべき査読者のてがかりを掴むこともできず、preferの査読者を避けがたい場面もあるだろう。しかし、馴染みがなく面識もないため名前を見ても、そもそも「実在」の人物かどうか分からない点も否定しにくい。最近、こうした「隙」をついた手口があるという。

いわゆるフリーメールのアカウントを用いて架空の査読者を創り上げ、なんと投稿した著者自身に転送設定をするというのである。もちろん、これに対する対処の責任は編集委員会にあると覚悟しなければならないが、投稿する側もpreferで指名する査読者の所属機関のメールアドレスがすぐに見つからないからといって、安直に普段やりとり用いているフリーメールのアドレスを入力しないようにすることは、投稿者・編集委員会の双方にとってのメリットとなろう。つまり、投稿者はヘンに疑われるリスクを回避することができるし、編集委員会としてはpreferに指名されていても、フリーメールであれば、採用しないという比較的単純な対応策をとることができる。十数年前に、初めて大学のメールアカウントをもらった時には、こんなことは思いもよらなかったものである(長い@以降で面倒だなあとと思っただけであった)。

(高尾総司)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：笠島 茂 (三重大)

副委員長：樺田尚樹 (国立保健医療科学院)、杉森裕樹 (大東文化大)、高尾総司 (岡山大)、
武林 亨 (慶應大)、玉腰暁子 (北海道大)、那須民江 (中部大)、西田和子 (久留米大)、
平工雄介 (三重大)、藤野善久 (産業医大)、八谷 寛 (藤田保健衛生大)

編集委員：石竹達也 (久留米大)、井上和男 (帝京大)、植嶋一宗 (津保健福祉事務所)、
小笹晃太郎 (放射線影響研)、萱場一則 (埼玉県立大)、川口陽子 (東京医歯大)、熊谷信二 (産業医大)、
黒沢洋一 (鳥取大)、近藤尚己 (東京大)、酒井一博 (労働科学研)、佐々木美奈子 (東京医療保健大)、
菅沼成文 (高知大)、田中昭代 (九州大)、土井由利子 (国立保健医療科学院)、中尾陸宏 (帝京大)、
中村裕之 (金沢大)、馬場園明 (九州大)、原田浩二 (京都大)、福島哲仁 (福島県立医大)、
堀口兵剛 (秋田大)、丸山総一郎 (神戸親和女子大)、三木明子 (筑波大)、三宅達郎 (大阪歯大)、
村田勝敬 (秋田大)、毛利一平 (三重大)、大和 浩 (産業医大)、吉田貴彦 (旭川医大)、
渡邊博且 (産業医大)

客員編集委員：梅津美香 (岐阜県立看護大)、田中紀子 (国立国際医療研究センター)、中田光紀 (産業医大)、
東 尚弘 (東京大)、八幡勝也 (産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番